がんばろう
南三陸町
復興第６４号

南三陸マイタウン月刊情報

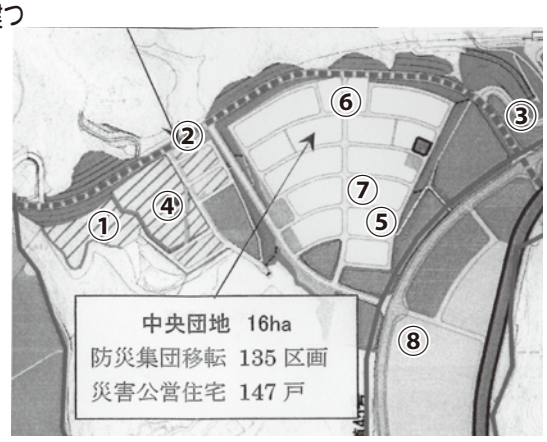
発行所
千葉総合印刷株式会社
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068
志津川広報センター
企画・編集　千葉伸孝

中央団地の完成まで東日本大震災から６年！

災害公営住宅のＤ棟
中央区の奥まった高台にそそり建つ

新井田からの横断道路の入口、
この場所に給食センターが建設される

災害公営戸建てが整然と建ち並ぶ



志津川地区の土地の区画整備の最後となり、急ピッチで建設が進み、
建設の順番を待つ用地

災害公営住宅Ａ・Ｂ・Ｃ棟が並ぶ

団地のメイン道路には理容店やそば屋さんがある

団地の中心を志津川小学校側から望む

7月オープンの住民念願の
ウジエショッピングモール

「愛の福袋活動の歩み」

空室が目立つ南方仮設

団体は大震災による南三陸町で被災した志津川袖浜の佐々木さんの広島への一次避難にあたり、南三陸町の震災を広島県を中心に、中国地方・九州地区の福岡県など周辺の会員と共に、その震災の現状を佐々木さんと講演して被災地支援を訴えた。

また、一方では佐々木さんの家業の民宿の再建に支援を続け、民宿を拠点として南三陸町や石巻市・陸前高田市などの、仮設で生活する女性を訪問し、物資や声掛けなど「愛の福袋」として、被災地女性に寄り添う活動を続けた。

震災直後からの支援があり、2015 年にはバスで関東以南から 30 名以上の会員が集まり、被災地「南三陸町」を視察し支援活動をした。南三陸町に点在する仮設を廻り、一軒一軒の被災者への物資を詰めた「愛の福袋」を、被災者の声を聴きながら寄り添い活動をおこなった。福袋の中身は各々の地区から、被災地に送る物資として集めた物を、季節に合った物を袋に詰め、メッセージと共に配る活動です。その他に仮設の女性達との交流を深め、今後の支援に何が必要か交流を深め、被災者に何が必要なのかを聞き取った。

入谷仮設に福袋を届ける

また、福祉施設「のぞみ作業所」の訪問や、「戸倉小学校」の児童には、富山県のチューリップの球根や、広島県の小学校からのメッセージを届けた。「あさひ幼稚園」でも園児や先生にも愛の福袋を手渡した。「志津川中学校仮設」では、オペラ歌手の生の歌声で元気を与え、福袋と物資を手渡した。

さんさん商店街で買い物

来るたびに南三陸町の海産品の「わかめ」などを大量に購入し、販促に協力した。被災地の水産業の体験では、生産者と共にワカメの芯抜き等の、ボランティア活動もおこなった。

今年で６年余りとなり、一つの区切りとして、今後の支援をどうするか模索している。団体は今後も南三陸町に来町し、観光支援・購買支援など続けて行くと話している。

（受け皿　千葉印刷　千葉伸孝）

5月25日　節目の南三陸町訪問

震災から７年目を迎え南三陸町の住民再建も進み、これまでの国連ＮＧＯ「世界平和女性連合」の活動についての報告を、最知副町長さんに伝えた。

今回は、回っていない南三陸町外の仮設に「愛の福袋」を届けた。南方仮設は、１期２期合わせて当初は 350 世帯が暮らしていたが、今は 50 世帯余りとなった。在宅の方々 10 世帯に配ることができた。次に、横山駅裏仮設に寄ってみたが、多くの仮設が空き室となっていた。

この日も、真新しい「さんさん商店街」に寄り、今が旬の「うに丼」に舌鼓を打ち、全ての商店に４人で来店し、南三陸町の商店の復興を実感していた。今回は３泊４日で、周辺の被災地も視察した。

(仮称)地域ささえあいモール説明会

５月 21 日（日）10 時から志津川東復興住宅第二集会所において、南三陸町社会福祉協議会と町・関係団体により、来年４月新設を目指す(仮称)地域ささえあいモールの説明会が開催された。説明会には周辺の災害公営住宅や住宅再建の住民など 50 名以上が集まり、建設にあたって住民へ説明と意見を聴いた。

２年前に「福祉モール」が話しに上がったと報告された。町社協の三浦事務局長の挨拶では、デイサービスとして 17 ～ 30 人の利用や、ケアマネジャー室の設置、被災者支援センターなどの見守り施設など、お年寄り世帯の総合サービスを目指すと語った。

住民代表として高齢者クラブの古澤さんは、毎月１回の地区のお茶飲み会があり、50 名前後の方々と情報交換をしている。「皆さんと共に今後も交流できれば良い」と話していた。

沼田地区の佐藤区長は、30 年前に商工団地ができ、15 年前には東浜団地が出来た。15 年間隔で人々が増えていると現状を伝え、皆さんと一緒に活動しながら、つながりを創っていきたいと話した。

社協が考える活動のイメージでは、ふだんの暮らしでは、気軽に立ち寄れるカフェラウンジ・ミニミニ食堂・お弁当惣菜の販売・子供たちの日常的な居場所・何でも相談など、高齢者の皆さんの参加できる活動の形を伝えた。

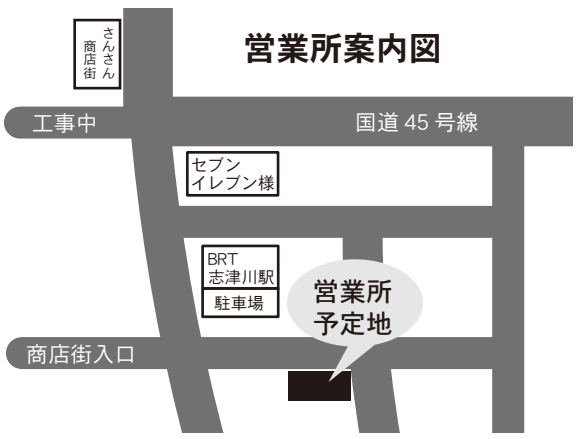
ときどき、定期的に、季節ごとに楽しむ！として、朝市やフリーマーケット・いろんな人たちが集う交流会・集まって食べて楽しむ会・地域の教室・講座などを上げた。

これからは、人口減少社会＋少子高齢化社会となり、町民総参画の街づくりのために、地域共生社会が必要となる。こうした地域共生社会づくりには、人と人が交差する「場づくり」が必要で、その場として「地域支え合いモール」が欠かせないと専門家が解説した。

住民とのワークショップ▶

千葉印刷営業所開設へ始動

４月 27 日に町より仮換地の確認と、仮引き渡しとなりました。
被災市街地の以前の本社向いの、及川魚店様の土地と両隣４軒にまたがる土地に移転地を確保いたしました。



今後ともよろしくお願いします。
千葉総合印刷株式会社
志津川字沼田 150 － 84（商工団地ローソン店下）
TEL４６－３０６９　FAX４６－３０６８

未来への教訓

復興！　大津波の記憶を風化させない

平成29年（2017年）
～ 地元報道より ～

２月の出来事

南三陸町

歌津町の駅裏の「鎮魂の森」で七回忌法要が１月 31 日に行われた。全国のダイバーで組織する。「南三陸町歌津地区漁協再生プロジェクト」が主催した。歌津町内の犠牲者と行方不明者 119 人の名前が刻まれた石碑が建立され、遺族・ボランティアなど約 60 名が参列し、歌津湾を望む石碑に手を合わせ冥福を祈った。

◆志津川高校生が寄贈した「モアイバス」が２月１日から貸し出しを開始した。情報ビジネス科の「モアイ化計画」の活動が震災後に実を結んだ。志高生の思いが詰まったモアイバス、「生涯学習活動に利用を！」と呼び掛けている。

気仙沼市は国保加入の一部被災者の窓口負担の免除を新年度も継続する。南三陸町は昨年度に打ち切った。仙台市や南三陸町など県内自治体 27 市町は財源の負担増で昨年で終わり、石巻市・女川町そして気仙沼市を含めた９市町は本年度も継続する。

◆南三陸町は新井田中央団地内の国道 45 号線沿いに、給食センターを新築する。町内の５小学校と２中学校に最大約千食分の給食を提供する。工事費は約６億 7470 万円で、2018 年４月の供用を開始する。

◆「南三陸まちづくり未来」は昨年 11 月に歌津地区の商店街名の募集をし、応募は 102 件があり、その中には「うたちゃん商店街」「キラキラ商店街」などがあった。その中から町内の男性が応募した、「南三陸ハマーレ歌津」に決定した。にぎわいの創出を担う施設として、大きな期待がよせられている。

◆気仙沼・本吉広域行政事務組合は、南三陸消防署を 18 年度着工を志津川中央団地内への移転を目指す事を、９日開催の広域定例会議会で決めた。

気仙沼・本吉沿岸の養殖ワカメの入札は、全国トップを切り９日開かれた。生育の遅れはあるものの、品質は上々ながら在庫がなく高値で取引きされた。10ｋ当たりの平均は、昨年より 2300 円高い 9554 円となった。最高値は１万 1039 円だった。

◆９日、南三陸町志津川地区内の都市計画変更に関する説明会が開かれ、ＢＲＴ運行での道路拡幅や、これから建設する震災振興記念公園の区域変更案を説明した。

南三陸町歌津で大震災の２カ月後から復興支援を続けてきた、伊豆大島のダイバー慶松亮二さん（72）は、海底のがれき処理や養殖場のメンテナンスを続けてきた。月１・２回歌津の海のがれき撤去支援を続け、地区の漁業者に感謝されていた。そしてこの度１月で支援を終了する。ダイバーの有志団体は行政や企業からの助成金を受けなく、１月 31 日には伊里前の鎮魂の森で、大阪・滋賀・静岡などの僧侶による七回忌法要が営まれた。

◆13 日「南三陸ハマーレ歌津」の４月オープンへの上棟式が催された。入居商店や近隣の住民、工事関係者など 50 人を前に約２千個の餅がまかれた。

◆南三陸町の震災から 20 年後の 2030 年まで県有化となった「町防災対策庁舎」の県費による修復工事が 15 日に補修が完了した。屋上の雨水対策や鉄骨のさび・コンクリートの劣化など、昨年 10 月 20 日から補修が始まった。総工費は約 4300 万円となった。

◆南三陸町で 17 日に今期初めてのサケ稚魚の放流を行なった。初日は 40 万匹で４月まで 10 回を予定する。今年は前年の 1.2 倍の 800 万匹の放流を目指す。

◆気仙沼・南三陸フォトコンテストで、最優秀賞に南三陸町上保呂毛の遠藤正弘さん（55）が輝いた。

南三陸町の 17 年度の小中学校の児童数見込みは、小学校で１年生は志津川 20 人・戸倉 13 人・入谷６人・伊里前 30 人・名足６名総計 76 名で、小学校全体で 538 名となった。中学校では、１年生が志津川 67 人・歌津 36 人で総計で 103 名で、学校全体で 334 名となった。

◆さんさん商店街のＰＲポスターが２千枚完成し、東京・仙台やＪＲ東日本の主要駅に 1300 枚を観光施設に掲示する。

◆14 日総合ケアセンターにおいて、糖尿病予防講演会が開催され、町民 80 人が参加した。東北大の児玉先生は、過食や早食いがその原因にあると話す。

◆東北電力気仙沼営業所とユアテック気仙沼営業所は、南三陸町にＬＥＤ防犯灯 20 灯と設置工事一式を寄贈した。

◆三陸ワカメの２回目の入札会が 23 日開催された。数量が倍になっても高値を維持している。在庫が少なく品質は上々で、10ｋ当たり平均では 9113 円で前回より 400 円ほど下がった。

◆南三陸町が「住宅無火災７００日」を達成した。15 年３月からの住宅無火災を継続中で、住民一丸の成果が実った。３月１日から春の予防運動で啓発強化を図っていく。

◆公立高校の入学者選抜審議会で、前期・後期の一本化への答申案がまとまった。

◆作業船が千葉沖で転覆し、甲板員の及川三男さん（58）＝南三陸町入谷が、不明となっている。

◆南三陸町の志津川市街地中央団地の災害公営住宅(集合タイプ)115 戸が３月 20 日に完成する。最後となった南三陸町の災害公営住宅は完成まで６年で、やっと住宅再建となった。

◆３月３日の「桃の節句」を前に、入谷地区の特産のハナモモの出荷がピークを迎えた。農業の鈴木さんの作業所では、淡いピンク色のつぼみを膨らませている。入谷地区ではグリーンツーリズム構想の一環として「桃源郷の里」づくりを展開している。

◆飲料会社アサヒグループは、南三陸町の「まちづくり未来」へ商店街の活性化に活用してと、300 万円を贈った。

南三陸町の佐藤町長は、防災対策庁舎の「震災遺構」の議論を、19 年以降に開始する方針を示した。19 年以降に「震災復興祈念公園」が完成した後となる。31 年３月 10 日まで県有化されている。

◆南三陸町は「交通死亡ゼロ千日達成」で、警察署から町へ褒状と感謝状が贈られた。町・安全協会・地域の連携と協力で達成となった。

南三陸町と気仙沼市の復興の進捗と問題を比較して見れます。

２月の出来事

気仙沼市

◇気仙沼税務署は 2016 年分の確定申告で、住宅ローン控除は 800 件を予想している。

◇気仙沼市の 17 年度の予算は３会計（一般・特別・企業）の総額で 1334 億円となった。本年度当初比で４割増となった。

◇「観光王国みやぎおもてなし大賞」の奨励賞に、気仙沼市の三陸ジオパーク気仙沼推進協議会と気楽会が受賞した。

◇気仙沼市は旧気仙沼向洋高校の遺構保存へ、活用方針や管理義務を規定する新条例を制定。県内被災自治体で初めてとなる。

◇気仙沼鹿折加工組合にシンガポールからバイヤーが来市し、組合の水産加工の商品と衛生を高く評価した。海外への輸出を目指している。

◇気仙沼市内の防集団地移転促進事業での土地の買い取り済は 58.2％で、買い取り済の土地の利活用している土地は全体の 57.7％を占めている。点在する土地の使途未定が約３割あり、今後点在地の集約で活用を促進していく。

気仙沼市社会福祉協議会の４月供用開始の市民福祉センター「やすらぎ」の、指定管理者が決まらない。理由には市社協は規模面などで意向が合わず応募を断念した。市は当面、直接管理しながら市社協と協議していく。

◇気仙沼市の新入学児童、生徒の見込み数は小学生が 414 人となり、昨年より 81 人減少し、総計で 2583 人となった。中学生は 518 人で昨年より１人増加し、総計で 1618 人となった。

◇「三陸沿岸を鉄路でつなぐ連絡協議会」が仙台への直通列車をと、実現を求め沿岸地域住民への署名活動を始めた。

◇気仙沼市議会の運営委員会で、飲酒運転疑惑で議員辞職勧告を受けた熊谷氏への一般質問不許可の決定が報告された。議長は大量退席で運営に支障となった事を、熊谷氏は混乱は退席した議員の方だと、考えの違いを話す。

◇22 日に「三陸気仙沼の求評見本市」で、市内の 35 社の 340 点の商品の売り込みに、全国からバイヤー 700 人が集まった。

◇気仙沼市は本吉町津谷桜子地内に、衛生管理を強化した「本吉共同調理場」が完成した。７小中学校へ 1200 食を４月から提供する。総工費は 11 億円で 1600 食の調理能力を持つ。

◇気仙沼市の職員の不足数が 42 人となり、新年度に人事課を創設し、応援職員の確保を強化する。

◇大島架橋の架設作業の 26 日の予定が、天候不良により出航できず３月４日に延期となった。

ゆう美容室東団地西工区内に
6月オープン予定

☆キャン美容室　46-2856
営業日　火曜日 ～ 金曜日
土・日も、連絡いただければ対応致します。　住所：入谷桜沢

印刷、受けたまわります。
他にも、文面があります。

住所移転のお知らせ

東日本大震災から６年が過ぎましたが、
お変わりなくお過ごしでしょうか？
これまでたくさんのご支援を賜り
感謝申し上げます。
おかげさまで、この度南三陸町
町営復興住宅に入居いたしました。
平成 29 年６月吉日

新住所　〒986-0728
宮城県本吉郡南三陸町志津川字天王山0 0番地
町営志津川東復興住宅○棟 000 号室
宮　城　太　郎